

- 3 地域のつながりハート事業
((社福) 堺市社会福祉協議会への補助事業)

【議事内容】

< 所管課からの説明 >

< 主な質疑 >

(岸本委員)

お元気ですか訪問活動では、訪問する側は何人程度いるのか。

(所管課)

1 校区当たり平均 30 ~ 50 人程度。

(枚本委員)

校区ボランティアビューローは、具体的に何をしているのか。

(所管課)

つどいの場、情報コーナー、交流コーナー、相談コーナーなど、場を提供するサロンのなものを運営している。相談は、民生委員、ボランティアの方が受けている。

(司会)

運営は地域で、市は場の提供だけということか。

校区ボランティアビューローで、市が関わっていることは何か。

(所管課)

場も、相談を含めた運営も地域に任せており、市は関わっていない。

市の関与は、社会福祉協議会を通じて、運営する費用を間接補助することと、地域の方と相談しながらメニューを作り上げること。

(福田委員)

地域の高齢者・障害者を対象としているとのことだが、この事業でどの程度カバーできているのか。

成果指標は訪問回数だけでいいのか。

この事業の中で社協の方はどういう役割を果たしているのか。

(所管課)

制度設計時は、要介護 3 以上・70 歳以上の高齢者をターゲットとして考えていたが、実際にはもう少し緊急性の低い方にも広がっている。

成果指標について、訪問回数だけで十分とは考えていない。

社会福祉協議会(社協)は、校区福祉委員会を自らの構成団体とするとともに地域をコーディネートする高い機能を持っている。実際の校区福祉委員会への補助金交付事務等は、ほとんど社協が行っている。

(田中委員)

定性的な評価もいいが、もっと定量的な成果を把握していくことが必要。

(福田委員)

人と人とのつながりについて把握するのは難しいのは分かるが、実施回数だけでなく、もっとしっかりした成果を示していくことが必要。

社協の役割については、住民がそこで何ができるか、主体的に問題解決できるような力を付けてもらうように社協が活動していけるといところがもう少し見えてこないことには、また単に事務的なことだけをしているのであれば、そこでの評価は厳しいものになる。

(岸本委員)

事業費 9,000 万円弱は、実際にはどんなことに使われているのか。

(所管課)

ビューローの施設の光熱水費や印刷費、訪問活動の交通費、資料作成費など。総額は大きい、1 校区あたりでは 100 万円弱である。

(西垣委員)

どういう人が孤立化しやすく、それにこの事業がどう寄与していると認識しているか。

(所管課)

一般的には仕事をやめた男性で、妻を亡くし、子が遠くにいる場合などが多い。

本事業の対象としては、地域とのつながりが一定以上ある方であり、この事業だけで全てをカバーすることはできないと認識している。市の様々な部局で行っている事業と連携しながら、総合的に対応することが必要と考える。

(司会)

市の施策の全体像が見えないので、判断ができない。せめて地域福祉推進課が実施している全体の施策の中での位置づけだけでも示すことはできないか。

(所管課)

当課では、民生委員の事務の他、セカンドステージ応援団、いきいき堺市民大学、コミュニティソーシャルワーカーなどを実施している。

(田中委員)

社協は、堺市からの補助金だけで本事業を実施しているのか。毎年の補助金はどうやって決めているのか。

(所管課)

事業費 8,500 万円位、うち市は 7,400 万円位、差額は社協の負担となる。毎年社協で校区福祉委員会からのニーズに応じて、市と協議しながら、補助要綱に照らして、助成総額を決定している。

(枚本委員)

お元気ですか訪問活動はほぼ高齢者が対象のようだが、子育て中の親子などを対象に加えてはどうか。

(所管課)

訪問活動は高齢者が主体だが、地域ネットワークでは、地域との連携の中で子育てサロンもやっており、一定の参加者もいる。

(西垣委員)

場所づくりもいいが、そういう所に来られない方、外国人、低所得者など、各戸訪問しづらい所はどうやっていくのか。

(所管課)

民生委員とも連携しながら、力を入れていきたい。

(枚本委員)

府下にも様々なボランティア活動をしている人がいる。NPO等とどう連携をしていくのか。

(司会)

NPO等との役割分担は重要なポイント。どのような形で考えているのか。

(所管課)

その辺は十分につかみきれていないが、社協やボランティアとの連携を併せて横串的なNPOとの連携も検討していく。

(福田委員)

今あるつながりを活かすことも重要だが、新たなネットワークをどう創っていくのかも、今後よく考えて欲しい。

(所管課)

その点をご指摘のとおり。本事業にはまだ不完全な部分、拡充の余地も多い。

(田中委員)

社協の毎年度の事業計画の策定に、市はどう関わっているのか。

(所管課)

社協の全体計画の策定には、市も相談しながら、密接に連携をとっている。

(福田委員)

事業の内容で高齢者にウェイトが高い。市民が自らの街を創っていくという形にしていくためにも、障害者や子育て親子にも、もっと力を入れていってほしい。

(所管課)

障害者・子育て家庭はサロンなどが中心だが、個で悩んでいる部分は、民生委員やボランティアなどとも連携をとって進めていきたい。

(岸本委員)

孤独死などには、貧困が大きな要素。本当に厳しいところは、冷蔵庫も空っぽ。そういうところに今後もっと力を入れていただきたい。

(西垣委員)

高齢者は、病気でどんどん弱っていく。高齢化社会の中でその辺りをどう対応していくか、長期ビジョンの中でしっかり示すべき。

<評価>

(司会)

もっと定量的な資料を付けてもらえれば、市民の方々に分かりやすい議論ができたはず。
今後事業を拡充するにしても、本当に必要な方に届くように対応していただきたい。